**慈悲行実践道場の理念と目的**

[１．なぜ慈悲行を実践しようとしますか 1](#_Toc447517109)

[２．慈悲の修集による利益 2](#_Toc447517110)

[３．どのように慈悲を修集しますか 3](#_Toc447517111)

[４．慈悲と三聚戒・報恩 4](#_Toc447517112)

[５．具体的な慈悲行 4](#_Toc447517113)

慈悲行実践道場は、仏教思想による慈悲精神を求め、慈悲行を

実践しようとする人の集まりです。

当法人の理念と目的は、仏教思想による慈悲精神を求め、以下

に掲げる仏教思想の教えに基づき、今日の社会問題の１つである高齢者をはじめとする、支援が必要とされる人々を対象とし、生活支援・施設提供などの活動を展開することによって、慈悲行を実践し、微力ながら当法人の活動を通じ、より多くの人々を常に自主的に利他的行動を取るように導くことである。

### １．なぜ慈悲行を実践しようとしますか

慈悲は仏教の核心思想の一つです。慈とは人に利益や安楽を与え、悲とは衆生から不利益と苦痛を除去することを意味します[[1]](#endnote-1)。

『優婆塞戒経』では、「智者深く一切衆生の生死苦悩の大海に沈没せるを見て、抜済せんと欲するがため、これゆえに悲を生ず」と仏陀が説かれています。

（原文：智者深見一切衆生沉没生死苦恼大海，为欲拔济，是故生悲。）

同じく『優婆塞戒経』では、「一切煩悩，是我大怨。何以故？因是煩悩，能破自他。以是因缘，我当修集慈悲之心，为欲利益诸众生故，为得无量纯善法故。」というように、何故慈悲を修集すべきかを教えられています。

### ２．慈悲の修集による利益

この慈悲は，次のように沢山の利益をもたらすことができることも、『優婆塞戒経』では説かれています。

1. 能断不善；
2. 能令衆生離苦受楽；
3. 能坏欲界；
4. 如是慈心，即是一切安乐因缘。若能修慈，当知是人，能破一切骄慢因缘，能行施、戒、忍辱、精进、禅定、智慧，如法修行。
5. 若人修定，当知是人，修梵福德。得梵身故，名梵福德。若人能观生死过罪、涅盘功德，是人足下所履粪土，应当顶戴。

６．若修悲已，当知是人能具戒、忍、进、定、智慧。若修悲心，难施能施，难忍能忍，难作能作。以是义故，一切善法，悲为根本。"  
　　"善男子，若人能修如是悲心，当知是人能坏恶业，如须弥山，不久当得阿耨多罗三藐三菩提，是人所做少许善业，所获果报，如须弥山。"

### ３．どのように慈悲を修集しますか

では、慈悲は如何に習得できるでしょうか？『優婆塞戒経』第27品では、詳しく教えられています。

1）「慈」の修習

\* 修慈之人，先从亲起，欲令受楽，此観既成，次及怨家

\*若能観怨一毫之善，不见其恶，当知是人，名为習慈；

\*若彼怨家，設遇病苦，能往問訊，瞻療患，给其所须，当知是人，能善修慈

\*若能観怨作子想者，是名得慈。

**２）「悲」の修得**

一言で言えば、衆生の様々な苦痛や不自在をよくよく観察し、それらを取り除いて上げようと発心・行動することによって修得します。

例えば

"又観衆生色力、寿命、安隠、辯才，不得自在，是故生悲。"  
"又観衆生诸根不具，是故生悲。"  
"又観衆生饥渴寒热，不得自在，是故生悲。"  
"又観衆生为煩悩火之所焼燃，而不能求三昧定水，是故生悲。"

### **４．慈悲と三聚戒・報恩**

慈悲は、菩薩が守らなければならない**菩薩三聚戒の核心的な内容です。**菩薩のシンボルの一つとして、**菩薩三聚戒を受持することです。三聚戒の一つは**[摂衆生戒](https://kotobank.jp/word/%E6%91%82%E8%A1%86%E7%94%9F%E6%88%92-79321)であり、一切の衆生を愛護し，利益を与えようとしなけばならないのです。

慈悲はまた、仏教の報恩理念の重要内容でもあります。仏教では、人の人たる道は恩を知り、恩に報いるべきという知恩・報恩の考えがあります。『正法念処経』には、母の恩・父の恩・如来の恩・説法法師の恩の四恩が説かれ、『大乘本生心地觀經』では、父母の恩・衆生（社会）の恩・国王（国家）の恩・三宝（仏・法・僧）の恩の四恩を説いています。弘法大師は、「恵眼をもって観ずれば、一切衆生は皆これ、わが親なり」と説き、道元禅師は「一切衆生斉しく父母の、恩のごとく深しと思うて、作す所の善根を、法界にめぐらす。」と仰せられました。

### ５．具体的な慈悲行

我々は以上の仏教理念を受け入れ、且つそれに基づいて行動し、慈悲行を実践しようとしております。

少子高齢化が深刻化していく中、人々の老後生活を支えるには、社会保障制度などの公的支援のほかに市民の自主的な支援活動が大いに必要とされています。松戸市のHPには「高齢者だけの夫婦世帯や単身世帯も増えてまいりますので、医療・介護に加え、日常の生活支援などの施策も求められております。」という福祉長寿部長渡辺忠氏のメッセージが掲載されるほどです。

この現状を鑑みて当道場は、高齢者への生活支援・施設提供などを具体的な慈悲行として、活動を始めようと計画しております。

条件が整えたら、出来る限り高齢者のニーズに応えるように、より多くの施設を提供します。こうした努力を通じて我々の慈悲行を絶えずに改善し、修行を極めていこうとしております。

微力ながら、私達の活動を通じ、より多くの人々を常に自主的に利他的行動を取るように導くことができれば、幸甚です。

1. 1. 《大智度論》卷20「慈名爱念众生，常求安稳乐事以饶益之。悲名愍念众生，受五道中种种身苦心苦。”
   2. [**^**](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%85%88%E6%82%B2#cite_ref-3) 《大智度论》卷27：“大慈与一切众生乐，大悲拔一切众生苦。大慈以喜乐因缘与众生，大悲以离苦因缘与众生。”
   3. [**^**](https://zh.wikipedia.org/wiki/%E6%85%88%E6%82%B2#cite_ref-4) 世亲《十地经论》卷2：“慈者同与喜乐因果故，悲者同拔忧苦因果故。”

   [↑](#endnote-ref-1)